

12 被服技能を測定する一方法（糸結びテスト）について

奈良女子大 藤沢キミエ
太田 昌子

1 家庭科教育においては、技術の学習を必要とする部面が少なくないが、その指導に当っては、単に経験や習慣に頼るのみでなく、より科学的な要素が取り入れられ、それに基づいた指導がなされるべきであると思う。例えばその一つとして、生徒自身の持っている能力を無視しては、効果的な学習は望めないのもであって、これら技術に関係の深い各種の能力について、その年齢による発達の度合や個人差、練習効果の問題、或いは性格・知能・環境との関係などを種々検討してみることも重要なことではないかと思う。今回は被服技術に関係の深い指先の器用さについて、上記のような点について測定する目的のもとに、糸結びによるテストを考案し、この方法が果して上記の目的に添うことの出来る信頼性のあるものかどうかを検討してみることにした。

2 長さ 10cm の赤木綿糸を、こま結びによってつないで行く作業を一定時間行い、その間に完成される結び目の数とその確実さを測定することとし、このテストを中・高・大学などの主として女子生徒・学生を対象として実施した。

3 各学年における能力の個人差や、年齢的な発達の度合を比較的明確に掴むことが出来た。なおこの作業の練習効果の有無やその傾向、一旦獲得された技能の持続傾向等についても或程度明らかにすることを得た。